

2019
9 / 16
[月・祝]

喜多流 宇都宮川舟

狂言 長光

すっぱ 野村 萬齋

田舎者 野村 裕基
目代 石田 淡朗
後見 内藤 連

仕舞 天鼓

シテ 友枝 昭世

地謡 大島 輝久
長島 茂
栗谷 明生
内田 成信

能 通小町

ツレ 佐藤 陽
シテ 粟谷 能夫

ワキ 森 常好

大鼓 国川 純
小鼓 鶴澤 洋太郎

後見 中村 邦生
佐々木 多門

地謡 大島 輝久
内田 成信
金子 敬一郎
栗谷 充雄

笛一噌 隆之
長島 茂
出雲 康雅
友枝 昭世
栗谷 明生

13時開演(12時開場) 宇都宮市文化会館 大ホール

主催 公益財団法人うつのみや文化創造財団 協力 栃木県謡曲連盟
入場料 一般3000円 / 高校生以下1000円 (全席自由・税込)
宇都宮市文化会館プレイガイド Tel.028・634・6244
FKDショッピングプラザ宇都宮店3F FKDショッピングモール宇都宮インターパーク店2F
お問い合わせ 宇都宮市文化会館 Tel.028・636・2121

5月11日(土) 発売開始・全席自由

狂言 長光

すっぱ 野村 萬斎
田舎者 野村 裕基
目代 石田 淡朗
後見 内藤 連

ある男が、都へ向かう途中、大津松本の市を見物していると、彼を田舎者と見透かしたすっぱ(詐欺師)が、男の太刀に手をかけ、自分の物であると言い張って盗もうとします。太刀は預かり物の、備前の名刀「長光」です。二人が太刀を奪い合っていると、目代(代官)が現れ、二人の言い分を聞くことになりました。太刀の造られた国や作者、地鉄、刃文などを説明する男の言葉を、すっぱが盗み聞きしてまったく同じように答えるため、目代はどちらが本物の持ち主なのか判断できません。それに気づいた男は、太刀の長さをこっそり目代の耳元で小さい声でささやくと・・・



仕舞 天鼓

シテ 友枝 昭世
大島 輝久
長島 茂
粟谷 明生
内田 成信

唐土の後漢の時代、王伯、王母という夫婦がいました。王母は天から鼓が降ってくる夢をみて身ごもり、生まれた子を天鼓と名付けました。すると奇跡が起こり、本当に天から鼓が降ってきたのです。妙音を発するその天の鼓を欲しがった帝が召し上げようとなりますが、それを拒んだ天鼓は鼓とともに山中に隠れます。天鼓は捕らえられて呂水に沈められ、鼓は奪われてしまいます。ところが、宮中に持って来られた鼓は、誰が打つても一切音を出しません。帝は天鼓の父親の王伯を宮中に呼び、鼓を打てと勅命を出します。息子を失った悲しみに沈む王伯が撥を取って打つと、なんと美しい音が鳴り響きます。哀れに思った帝は王伯に宝を持たせ、家に送り届けるのでした。



能 通小町

ツレ 佐藤 陽
シテ 粟谷 能夫
大鼓 国川 純
小鼓 鶴澤 洋太郎
大島 輝久
内田 成信
金子 敬一郎
粟谷 充雄
後見 中村 邦生
佐々木 多門
第一 噌 隆之
長島 茂
出雲 康雅
友枝 昭世
粟谷 明生

季は夏、京の八瀬の山里で修行をする僧のもとに、毎日木の実と薪の小枝を持って来る女がいます。今日こそ女の素性を聞こうと待っていると、現れた女は、椎、柿、笹栗、梅、桃・・・など木の実の名の数々を挙げて話をしたあと、自分は市原野に住む姥であり小野小町である、とほのめかして回向を頼み、消えてしまいました。市原野に赴いた僧が小町の霊を弔っていると、それに牽かれるように小町の亡霊が現れ、戒律を授けて欲しいと懇願します。僧が授戒をしようとする、それを妨げる声があります。見ると小町の背後に、髪振り乱した深草の少将の亡霊が立っているのです。生前、小町は自分に心を寄せる少将に対して、愛の証に徒歩探足で身をやつしての百夜通いを命じました。ところが、少将はあと一夜という九十九夜を成したところで命を落としてしまいました。死んで地獄へ落ちてもなお小町に対する激しい妄執は尽きることなく、なおも拒む小町に、少将は、煩惱の犬となつてたとえ打擲されても離れない、と纏わりつきます。そこで僧は、懺悔に



百夜通いのさまを再現し、少将、小町ふたり共の授戒を勧めます。苦しい九十九日の日々を語りながら、最後の一夜、飲酒戒を守ったことから一念の悟りとなって、小町も少将も共に成仏することがのできるのです。